

## 借音仮名からみた稲荷山鉄剣銘

『長田夏樹論述集（上）』第21章

（原載：『京都産業大学・国際言語科学研究所所報』第1巻第3号，1980年6月）

この論文は1979年10月15-16日に京都産業大学で行われた「日本祖語とその系統に関するシンポジウム」の議事録に収録されたものである。稲荷山古墳出土鉄剣銘文に見える借音表記された固有名詞の読み方と、銘文の作成年次について論じている。

前半部分は、推古朝遺文、百済史料、上代日本語資料等に用いられている借音仮名の状況を参照し、また上古中国語音や百済漢字音の関与をも考慮して、借音表記された固有名詞の読みを推定する。後半部分では、通説が銘文の作成年次を471年、「獲加多支鹵」を雄略天皇とするのに対し、作成年次は511年、531年、571年のいずれか、「獲加多支鹵」は武列天皇または欽明天皇である可能性を提示する。

本論文が提出する借音表記の読みは、埼玉県教育委員会編集『稲荷山古墳出土鉄剣金象嵌銘概報』（以下、『銘概報』と略す。埼玉県自治振興センター内県政情報資料室，1979）の読みに対する異論としての意味を持つ。両者の違いが分かりにくいので、以下の対照表によって、本論文の独創性を示そう。

鉄剣銘文中の固有名詞	『銘概報』の読み	本論文の読み	備考
足尼	スクネ	スクニ	
意富比埵	オホヒコ	オホヒコ	
獲居	ワケ	ワケ	
豆已加利獲居	テヨカリワケ	チ(ト)ヨカリワケ	トは乙類
多加披次獲居	タカヒ(ハ)シワケ	タカハシワケ	
加差披余	カサヒ(ハ)ヨ	カサハエ	「余」はヤ行のエ
多沙鬼獲居	タサキワケ	タサキワケ	
半豆比	ハテヒ	ハニチヒ	下巻第22章ではハヂヒの可能性も挙げる
乎獲居	ワケ	ワケ	
獲加多支鹵	ワカタケル	ワカタキロ(ツ)	「鹵」が「西」の異体字であればワカタキソと読む
斯鬼	シキ	シキ	

『銘概報』と比べると、本論文の読みは支・脂韻をイ、齊韻をオ、魚韻をエ、模韻をオと一貫して推定する点が特異である。必ずしも『銘概報』の読みを直ちに排除できるものとは言えないが、なお検討の価値を有する。新たな読みの可能性を広げた重要な論考である。

(橋本貴子)